

1. 本園の教育目標

- 法遵守のもと、二上幼稚園の地域・園児の実態を踏まえ、家庭・地域と連携を大切にしながら、様々な体験を通して健全な心身の基礎をつくり、明るく心豊かでたくましく生きる力をもった幼児の育成をはかる。

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

- 幼児一人一人の特性や内面をよく理解し、園児の調和的発達を促すための指導に取り組む。
- 園内外の環境を見直し、積極的に活用することで、心揺さぶる体験を教師や友達と共有し、豊かな心情の育成に努める。
- 基本的な生活習慣及び健康な生活に必要な態度や習慣の形成に努め、元気に挨拶のできる幼児の育成を目指す。
- 地域の教育力を活かした教育活動に取組み、家庭や地域との連携を深めながら教育の推進に努める。
- 支援の必要な幼児の実態を把握し、自立と社会参加の基礎となる力を育てる。
- 保幼小の円滑な接続・連携を目指し、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を意識しながら学びに向かう生きる力の基礎を培う。

3. 評価項目・評価・取組と達成状況

評価項目	評価	取組と達成状況
(1) 教育目標及び指導方針	A	<p>園での様子や保育内容について分かりやすく発信するため、ドキュメンテーションを作成して掲示したり、香芝市公式ホームページに掲載したりした。また、教育目標をよく知ってもらえるよう園内壁面の目につくところに提示したり、プリントを配布したりするなど保護者にお知らせできるように努めてきた。</p> <p>行事や活動、遊びの内容について、できるだけ保護者の方に知らせ、安心して園生活を送ることができるように努めてきた。</p> <p>今年度もファームデーとして、保護者の方により園の様子を知ってもらえるよう、保育参加の時間も短時間であるが定期的に環境整備を実施し保護者の方にもご参加いただいた。</p> <p>今後も更に園からの発信を工夫しながら、保護者や地域へ園の様子をお知らせできるように継続していきたい。</p>
(2) 幼児理解と保育の質の向上	A	<p>日々の保育の振り返りを基に、多面的な関わりや見方、援助方法等についても職員間で話し合いを重ね、互いの幼児の見取り方が支援や内面理解にもつながれるように、また、幼児のありのままの姿を受け止め、幼児一人一人に丁寧な関わりをすることを大切に職員間で共通理解し、取り組んできた。</p> <p>保育の質の向上の取組の中では、保育環境の工夫として安心・安全な場づくり、子どもの主体性を育む遊びや活動の機会を増やす、発達に応じた計画策定があげられる。また、専門性の向上を目指して、今年度も昨年に引き続き、特にチーム保育の充実として職員同士の連携強化を実施するなど幼児の豊かな心を育むように考え取組を進めてきた。今年度は県幼児理解・発展推進事業に参画し、幼小架け橋期プログラムについて取組、研究の成果を報告する機会を得た。幼児の育ちにおいて、主体性のある活動につながる取組や保育活動ができるよう環境を通して行う教育を軸に、職員連携にも力を注ぎ、幼児理解にもつなげたことで保育の質の向上につながったと思われる。</p>
(3) 保護者・地域との連携	B	<p>保護者や地域のご協力を得ながら、幼児一人一人が、身近な環境に触れ安心して自己発揮し、豊かな心を育てるように考え、環境の見直しを行い整備してきた。</p> <p>昨年度に引き続き、幼稚園横のキラキラパークの環境整備のひとつとしての「ファームデー」を更に活かし、保護者の方への啓発とともに保育参加の場として幼児と一緒に草引きや野菜の苗植え、収穫などの活動体験ができる機会となった。</p> <p>また、地域の保育所・小学校とも定期的な交流ができた。特に防災面において、総合避難訓練で計画・振り返りを行い、そこから評価と課題を見出すことができた。また、サツマイモ苗植えやクッキング活動などの交流からも振り返りや意見交換もできた。その他活動についても必要に応じての話し合い、見直しを行い、保育活動に活かせるよう努めてきた。今後も互いに声を掛け合いながら活発な連携ができるよう進めていきたい。</p> <p>今年度、保護者からの写真撮影についての要望等あり、要望に関しては丁寧に思いや考えを受け止めるようにしてきた。市導入のコドモンアプリを最大限に利用し、保護者の要望に添えるよう可能な範囲で教育活動に反映できるように努めてきた。</p> <p>一方で公的機関としての基準や方針に基づきすべての要望に応じることが難しい面もあり、趣旨や理由などわかりやすく説明するなど理解を求めるようにしてきた。</p> <p>その結果、混乱をきたすことはなかった。信頼関係の維持・向上に今後も努めたい。</p>

#### 4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価・結果

- 今年度、教育目標を達成するために研究テーマを「様々な体験を通して、人とのつながりを深め、豊かな感性を育む保育を目指して～幼児期の遊びから生まれる学びについて～」とし研究を進めてきた。幼児期に豊かな体験を通して、生きる力の基礎を育むことが求められている。少人数の良さを活かして、安心して園生活を過ごし自分の思いや考えを表出できることを目的に今年度も研究主題を設定し取組を進めてきた。職員間で子どもの見取りについて話し合いを何度も重ね、丁寧な関わりを心掛け、幼児一人一人の豊かな心の育成を推進するために様々な人との関わりを大切にすることを推進し援助を心掛けてきた。
- 日々保育を振り返り、資質向上に努めながら、「幼児理解」「環境構成」「援助の在り方」に視点をおき、できるだけ職員で話し合う機会をもった。話し合うことの大切さを痛感する反面、通常保育や預かり保育などの保育に携わることや勤務時間形態の違いから、少人数がゆえに見えてくる幼児一人一人の特性を伸ばすための援助や幼児理解について職員間で話し合う時間がもちにくかった。このことを鑑みて取組を進めてきているが幼児の「やってみたい」が実現できるような環境や援助の工夫、職員連携のもち方の工夫が大切であると強く感じた。今年度は朝の打ち合わせを夕方に変更し、打合せ記録を提示する方法を実施したことで隙間に有効に時間を活用することもでき良かった。
- 地域の方々との関わりや協体制度ができている。保護者や地域の方々から幼児の園生活が豊かになるよう支援してくださっていることや日頃から多方面にご協力いただいていることから、今年度も地域の中で愛されている幼稚園であると実感できた。今後も子どもたちの豊かな成長を育み、保護者が安心できる子育て支援を担う開かれた幼稚園を目指していけるよう努めていきたい。

#### 5. 今後取り組むべき課題

評価項目	具体的な取組方法
安全管理	<p>幼児と共に定期的に、火災・地震等を想定していろいろな時間帯に避難訓練を実施してきた。また、不審者等の対策を考え今年度は、園職員の研修として、不審者への対応や園児を安全に避難させる方法を学ぶ機会を設けた。職員で危険箇所や不審者侵入時の対処方法や役割について考える機会をもった。日頃より常に危機感をもち、職員全員が対応できるよう今後も危機管理に取り組んでいきたい。</p>
保・幼・小・中の円滑な連携及び接続	<p>様々な人との関わりの中で、楽しさや心地よさを味わい、コミュニケーション力を高める必要がある。感じたこと・考えたことなど自分なりの表現で伝え、相手の思いにも気付き、話をしっかり聞く姿勢を培うことが大切だと思われる。</p> <p>保幼小の連携も地域としては確立されている。このことを活かして更に職員同士の円滑な接続・連携ができるように努めていきたい。</p> <p>また、幼小架け橋期の観点から日頃より小学校の先生方に幼稚園の幼児の様子を参観してもらえるように呼び掛けるなどの機会を作っていけるように今後も努めていきたい。</p>
働き方改革	<p>職員が健康的に働ける環境を整えることで、仕事へのモチベーションが上がり、幼児への対応にもゆとりがもてると考える。また、今年度も仕事内容が偏らないよう仕事量のバランスや中身の精選、行事活動や保育の見直しを考えてきた。今後も更に業務の精選を考えていくことが必要であり取り組んでいけるようにしていきたい。</p>

#### 6. 学校関係者評価委員会からの意見と今後の改善について

- 学校関係者評価委員会を年3回実施し、園経営について理解を得る機会としている。その中で保育の様子を見て意見交流をしながら下記のように評価をいただいている。
- 今年度も様々な行事において活動形態を工夫してきた。七夕まつり会や運動会、生活発表会、作品展等を見ていただいで園の取り組みの中から園児の様子や関わり方について、全職員が園長を中心に子ども一人一人の内面理解に努め、今、「何が大切なのか」「今、何の力を育てようとしているのか」を日々の保育の中で考え取り組んでおられる。
  - 子どもたちがのびのびと自発的に遊びや行事に取り組む姿が印象的で、とても良い環境を作って活動ができていることが伝わってきたという嬉しい言葉をいただいた。更に、幼稚園は「保護者の要望に耳を傾け、すぐに改善・検討を進めていただき、保護者に寄り添う気持ちが表れて有難かった」というご意見もいただいた。今後も保護者の思いをしっかり受け止め、園運営に活かしていけるように努めていきたい。それとともに近年保護者の要望や考えも多様化し、それを受け止めながら信頼関係を構築していくことは今後も大きな課題である。
  - 地域の方の協力で地域の方々や園児や幼稚園がつながりをもち、関屋鉄道や関屋ポニークラブなどに園外保育に出かける機会もあった。今年度も様々な方々との交流活動できたことは、とても嬉しく、感謝の気持ちでいっぱいである。
  - 今後も職員が力を合わせ、幼児が様々な人とのつながりの中で互いを認め合い、安心して自己表出できるための環境づくりに努め、地域に愛される幼稚園として努力していきたい。
  - 先生方が自分のことを振り返り「できている」と評価していることが素晴らしいと思う。自分の頑張りを客観的に評価できるぐらい職員の成長が見られた。
  - 先生方が子どもの課題を意識して取組を積み重ねてこられたことが子どもたちの成長につながったと思う。
  - 「子どもたちの発達と学びの連続性」を大切に幼小架け橋期が重要といわれる中、滑らかな接続ができるよう今以上に幼小連携の強化に努めてほしいというご意見もあり今後も幼小連携についても地域の幼稚園として継続して進めていきたい。